



同窓会の紋章

双ヶ丘

2018年3月1日

12号



破顔一笑

表紙絵 (石山 荷心さん)

題字と絵は、石山荷心（本名・清子）さん（山城14回）の作品です。書家としての荷心という雅号は、山城高校で国語教諭を務めておられた木下光雄先生から頂かれました。結婚後、愛知に移られ、書道教室を開いておられましたが、お子さんが成人して家を出られたのを機に、もともと腕に覚えの日本画と書を組み合わせた作品を、制作しておられます。

絵を描くに当たっては、対象の外観を美しく再現するのではなく、それを見たときの自分の気持ち、感情を表現することを心掛けている、とのこと。破顔一笑の文字とともに、「おいしそうなブドウだな」と思いながら筆を執っておられる気持ちが伝わってきます。

目次

会長と校長あいさつ	2
110年のお祝い	3
同窓生からの投稿	4
ウォーターボーイズ公演、姉妹校との交流	10
	11

「チーム山城」の絆

京三中・山城高同窓会

会長 渡部 隆夫



私達の母校
は2017年
創立110周
年を迎えまし

た。明治41年に開校し、以来学制改革や太平洋戦争など波乱万丈を乗り越えての110年でした。そして、今や京三中・山城高卒業生はざっと5万名を数え、今年も新たに400名近くの新同窓会員を迎えます。

さて、母校は通学区域が総合選抜制になって3年、教育ビジョンを「グローバル社会で活躍できる力を育み、将来、様々な分野で社会に貢献する人間を育成する」として、非常に速いスピードで変化する時代に、剛健、進取、協同、正義、真実、責任、平和、協力、友愛の校風「山城スピリット」でその先駆けとなる人材づくりを学

校の使命とし、教育改革を進めておられます。なつかしい校舎は一新され、中庭には総檜貼りの「檜舞台」を連想させる立派なものに生まれ変わりました。全同窓生を含めた「チーム山城」のメンバーそれぞれの人生の「檜舞台」で活躍されている姿が目に見えて参ります。

「チーム山城」メンバーには政治、司法、経済、文化、芸術、スポーツや多くの分野で世界や日本で活躍されている数多くの人達がおります。毎年巣立ってゆく卒業生が、自分もまた「チーム山城」のメンバーなのだという誇りを持って、立派にその人生を歩んでほしいと思います。同窓会はメンバー相互の親睦と母校への後援であります。私達ひとり一人が高めあい「チーム山城」の絆でつながっている同窓会でありたいと願っています。

次世代の育成に 同窓会の御支援を

校長 山口 隆範



同窓会の皆様には、日頃から本校の教育に御理解・御支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

4月に嵯峨野高校から山城高校に異動して、まもなく1年が経とうとしています。この間、本校の伝統を大切にしつつ、大きく変化する社会へ生徒を送り出すためにはどのような教育をなすべきかを熟慮してきたところです。

今、教育改革が叫ばれ、少子高齢社会とグローバル化に対応できる人材の育成が求められています。同時に、ドローンや自動運転車に見られる人工知能（AI）との協働を模索できる柔軟で創造的な思考力の育成も課題となっています。このような人材・能力の育

成には、効率の良い知識伝達を主目的とする講義型の授業から脱却して、いわゆるアクティブラーニングの導入による、対話的で深い学びに満ちた授業を実践する必要があります。そのような授業は、生徒のみならず教員自身にも未経験な要素が多く、大きな挑戦となりますが、次世代育成のためには必要な行程だと考えています。

一方、この授業改革にとどまらず、できるだけ多くの本校の生徒に、他校の生徒や他府県の高校生、海外の同世代の人々と交流させ、世界観の変容を促したいと思っています。いくらインターネットが発達したといっても、やはり直接の出会いやふれあいの影響は大きいものであり、生徒にとってそれは大切な機会となるはずです。こうした取組には、同窓会の皆様の支援が欠かせません。次世代の育成のために引き続き御支援賜りますようお願い申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

110周年祝賀会

実行委員長 山城20回 桶谷 良

平成29年5月21日に開催されました京三中・山城高同窓会創立110周年記念理事総会及び懇親会を成功裏に終えることができました。皆様方から様々な御支援御協力を賜りましたことに書面をお借りして厚く御礼申し上げます。

2年前の理事総会の席上、森前会長より「実行委員長はおまえやれ」と指名をお受けして実行委員会形式で動きだし、本部から庶務（現副会長）の高橋さんと6名の後輩で結成しました。孫子のように年代に開きのある会を一同に開催することには不安がありました。コンセプト作りからはじめ、背伸びや無理をせず気軽に参加できる範囲内ですることになりました。役割分担をして、各委員が予め原案を作成し会議に諮るという段取りでした。様々な工夫が見られ、次から次へと難問をクリアーして

いく課題解決能力や創造力は素晴らしいものを各自が持ち合わせていました。私が任されたのは会場と日程。渡部現会長より会場提供のお申し出があり、飛びつくことになりました。交通至便・安価・無理が聞いてもらえる点です。また司会進行では桂文也氏に無理を言い、全てを任せました。もう一つあります。手作りの物がいくつかありました。印刷物は勿論ですが名札や荷物預かり札も、それに舞台上の看板も手作りです。手間暇かけて作っていただきました。今、伝統である先輩後輩の絆の結集とも言える強い繋がりや温かみを感じざるを得ません。感謝感謝です。



左から森貞男前会長、司会の桂文也さん、釜本邦茂さん

京三中・山城高一〇年 お祝いの会（東京支部）

山城21回 井上 公男



110年記念会

11月11日、京三中・山城高一〇年お祝いの会が、ホテル雅叙園東京にて開催されました。85名が参加し、会食形式にて盛大にかつ和やかな雰囲気なか、4時間に亘って旧交を温め合いました。

高校を卒業後、関東地方に移住した卒業生の有志を中心に京三中・山城高同窓会東京支部を昭和37年に発足させました。これを機に1700以上に及ぶ卒業生の名簿の作成を継続的に行い、毎年、東京の帝国ホテルに於いて同窓会を開催して参りました。ただ近年、卒業生の新規加入者の無いことや幹事の高齢化等により、平成19年に支部はいったん休会となりました。

今回は京都にて開催された110周年祝賀会を受けての東京支部の記念すべき集まりとなりました。会には楽しいゲームやくじ引き、元日本フィルのドイツ人チェロ奏者による素晴らしいコンサートと、尺八の演奏で、全員が懐かし

い歌を合唱いたしました。京三中卒業生も4人参加いただき、京三中校歌をすべてそらで4番まで熱唱されました。山城19回卒業の大前進氏の熱烈なエールに続いて、山城校歌の大合唱、皆様の熱気が会場にあふれ出ていました。司会

は、山城23回卒業で女優の城谷小夜子さんで、本会の流れをとてスムーズに運んでいただきました。参加者の平均年齢は70を超えていましたが、皆様が大変に若々しく楽しそうでありました。「機会があれば、準備して、また開催してもらえのかなあ」という気持ちになっていただけたような素晴らしいお祝い会だったと思います。

●尾崎ブラザース 伏見・納屋町ライブ

山城4回 乙部 秋良

2017年11月18日、京都市伏見区の納屋町商店街の中ほどにあ

る、白い内壁と総ガラス張りの外壁の明るくて清潔なライブ喫茶「レ・ミューズ・カフェ」を会場として、尾崎ブラザースの演奏会が行われた。この演奏会と同じ会場で2か月に1度、定期演奏会を行うバンド「テネシー・シャントイ・ボーイズ」の呼び掛けに応えたものである。

尾崎ブラザースが京都でアメリカ発祥のブルークラス・ミュージックを演奏するのは、まる2年ぶりのことである。山城高の同窓生やファンたちが集まって来て、午後1時半に開場するやいなや40ほどの席が満席になった。

話は今から240年以上も昔のアメリカでのことだが、1776年にアパラチア山脈の東側13州がイギリスから独立し、更に1783年にはこれより西、ミシシッピ川より東のケンタッキー州やテネシー州を含む土地がイギリスから割譲されると、この地の開拓の為、大勢がイギリス各地から移住して

きた。

彼らの娯楽の一つは殺物などを一時貯蔵する大型のバーン（Burn II 納屋）などを使って祖国の歌や踊りを楽しむことであった。後に「バーン・ダンス」、すでに独立していた東部に対して「ウエスタン・ミュージック」「カントリー・ミュージック」などと呼ばれる。

1900年代に入るとレコーディング技術が普及し、1920年にはラジオ放送も始まる。テネシー州ナッシュビルの地元放送局



会場のレ・ミューズ・カフェ

WSM-AM650が音楽番組「WSMバーン・ダンス」の放送を開始。デレクターは定期的に行われる音楽祭典をヨーロッパのオペラの向こうを張って「グラッド・オール・オーブリ」と名づけて今日まで続けている。1945年、この祭典に出演していたビル・モンローが楽器の編成を工夫し、ボーカルもソロとハーモニーの組み合わせが楽しめる演奏方法を発表すると、これを模範とするバンドが相次いだ。この新しい音楽はゴスペルなども含め、ビル・モンローの出身地のニッケネムに因んで「ブルークラス・ミュージック」と名付けられた。その後この音楽の普及を図るため、1985年にはケンタッキー州オウエンズボロ市に国際ブルークラス音楽協会（IBMA）が設立され、同市オハイオ川の辺に演奏会場を併設した国際ブルークラス博物館が建設された。

2004年、尾崎兄弟が大学卒

業後に編成したイースト・マウンテン・ボーイズの音源がこの博物館に永久保存されることになり、同年に開催された第1回ブルーグラス音楽の祭典 River Of Music Party (ROMP) のゲストとし



尾崎ブラザーズの熱演 (右奥はテネシー・シャンティ・ボーイズ)

て出演し、大変好評を博した。以来、毎年のようにこの祭典に招聘され、2008年にはブルーグラス音楽の第1世代約1000人が Pioneer Of Bluegrass Music に選ばれ、その中にアメリカ人以外で

唯一尾崎ブラザーズが表彰された。また2013年にはIBMAから最高の栄誉、特別功労賞 (Distinguished Achievement Award) を受賞した。

尾崎ブラザーズ、兄の恭三は



恒さん得意のスティールギター演奏

山城高校2回、弟の恒三^{トシ}さんは山城高校4回で、共に80歳代であるが、演奏も歌声もますます冴えて老いを知らない。恒さんの裏声は若き女性のような高音で澄み切っていた。彼がレギュラー出演するFM鎌倉で鍛えた得意の漫談風の語りを交え、テネシー・シャンティ・ボーイズのメンバーとも交代しながら予定の2時間はあつという間に過ぎ、最後に恒さんお墨付きの美しい音色のバイオリニスト蔦川元さん(山城高校34回)のお披露目演奏があつて終了。続いて会場のオーナードピアノ教室を主宰される平田啓子さんの計らいで尾崎ファンだけの二次会があり、30名ばかりが参加。最後にブルーグラス調の山城高校校歌を合唱。「今日は楽しかった」「心が洗われる思いだった」。こもこも語りながら家路についた。

湯快リゾート

宇奈月グランドホテル



宇奈月温泉

● 15回卒業生有志旅行会の歴史

山城15回 岩田 勲

10年前に数人の同窓生から有志で旅行に行こうと提案があり、とりあえず数人に声をかけて平成20年に「恵那峡温泉旅行」(1泊2日)に行くことを計画したところ、15人が集まりバス旅行が始まりました。ホテル到着後まず夕食前に男女混合で卓球を楽しみ夕食では宴会状態で盛り上がり、2時間があつという間に過ぎ、しばらく休憩後2時間のカラオケ大会で再度盛り上がり、高校時代に帰ったような姿を想像してください。これで終わりません。カラオケの後是一部屋に全員が集まり、さらに高校時代の思い出話で盛り上がり、時間の過ぎるのを忘れ楽しく過ごしました。

1回目の旅行が楽しかったのか、その後平成21年に「白浜温泉」(15人)、平成22年に和倉温泉(23

人)、平成23年に「下呂温泉」(森先生の傘寿を祝いご夫婦で招待しました。参加者は19人)、平成24年に「湯村温泉」(17人)、平成25年に「伊勢志摩温泉」、平成26年に「山中温泉」(19人)、平成27年に「白浜温泉」(15人)、28年に「あわら温泉」(20人)そして29年は10周年記念として「宇奈月温泉旅行」に25人で11月19日から20日にかけて行って来ました。2日目にはトロッコ列車に乗り、樺平まで観光に行って来ました。前日降った雪が積もり素敵な景色に皆さん感激でした。

来年はどこに行くやら考え中です。いつまでも元気で長生きをして仲良く旅行会を続けていこうと考えています。

● 一万人の第九コンサートに参加して

山城18回 松木 利夫

平成29年12月3日に大阪城ホールで開催された一万人の第九コンサートに初めて参加しました。私の合唱歴は山城のコーラス部と定



リハーサル写真



指揮者の佐渡裕氏

年退職後に入団した混声合唱団の4年間です。平成28年12月にコープこうべの第九コンサートに初めて参加して大変感動しましたので、平成29年は一万人の第九にもチャレンジしました。今回が35回目の開催で、練習は全国13都市の41クラスが開設されました。9月

から6回の練習（初心者コースは12回）と指揮者の佐渡裕さんの練習（いわゆる佐渡練）を経て本番に出演出来ます。女性に申し込みが多く抽選で外れる人が多数おられます。本番はドイツ語の楽譜を見ずに歌います。11月25日前後に佐渡練です。兵庫県立芸術文化セ

ンターのホール等で1回当たり100人以上が参加します。私の前の席には今回が2回目という小学校2年生の女児が居ました。12月2日は大阪城ホールでのリハーサルで、オーケストラやソリストも参加しての練習で

す。私の席はアリーナ南側のテノール席の前から4列目で、目の前にオーケストラが居て、指揮者までは10メートルぐらいの距離で臨場感たっぷりな良い席でした。反対側の女声合唱はこだまのように若干遅れて聞こえてきました。12月3日はゲネプロ、本番と緊張した時間が続きましたが、大変楽しく歌えて感動し、合唱の最後の方は涙がこみ上げてきました。1万人で歌う第九は壮観で鳥肌がたちました。1万人の中には北海道から沖縄まで全国から来られている人が大勢おられ、年齢も上は93歳から下は6歳まで様々な人達でした。ゲストの服部百音（服部隆之氏の娘）さんのヴァイオリン、小栗旬さんの第九のシラーの詩の朗読も素晴らしいかったです。観客は約4000人でチケットは抽選になります。なかなか当たらないようです。次回も是非参加したいと思っています。

●TV出演始末記

山城19回 松本 直通

2月初めのことでした。店先がざわついているので出てみると、



饅頭喰い人形

漫才コンビ「ますだおかだ」の増田さんがカウボーイハットをかぶっておられました。読売テレビの夕方の番組「かんさい情報ネットten」内の「街かどトレ

ジャー」の収録は、本当にアボなしで、ビックリしました。今回は六条界限ということで、東の方から歩いて来られたそうです。

六条西洞院で100年以上にわ



梅月店頭と筆者

たり、和菓子店「梅月」を営んでいます。「何かお勧めは？」と尋ねられ「今ならうぐいす餅」と勧めたのですが、私がしゃべりすぎて、なかなか口に乗らず、困っておられました。

「お宝は？」と尋ねられ、2体の「饅頭喰い人形」を紹介し、一つの饅頭を半分に割って持つ姿のいわれをお話ししました。1体は伏見人形、もう1体は大分・佐土原の有名な女性作家（故人）の作品で価値があり、ちゃんと管理していれば、額にひびが入ったり、はげたりしなかったのに、と話す間、増田さんの視線はずっと上目遣いに私の額に。「年いったらそらはげますわ」とうまくもっていかれ、楽しく面白い時間でした。

TV放映は2週間後の2月15日。同窓生から「今、映ってるやん」と電話がかかったり、お客さんから「TV見ましたよ」と声を掛けられたり、しばらくは近隣で時の人となりました。

● 10月第3土曜の会

山城26回 松村 多美男

山城26回卒業同窓会を10月21日（土）にANAクラウンプラザホテル京都「花梨」にて行いました。久しぶりに会う面々に高校時代



記念写真

の思い出話は尽きません。文化祭で悪さをしたAやこっそりパチンコ店に入ったつもりが先生にばったりのBとか、小さな悪事やエピソードは限りがありません。女性たちは落ち着いた暮らし向きの人が多そうですが、男の現実

は中途半端な年寄りばかりで、ハッピーリタイヤしたのは1人だけ、3歳児の子育て中や就学中の子どもがいる者など、ほとんどの男は働きながら、楽しい老後を見ているようです。

出席者は26名と少なめでしたが、楽しく盛り上がりつつ同窓会でした。次回もまた10月の第3土曜に開催する予定です。

● 21世紀塾の講師を務めて

山城28回 木皮 優

私の勤める会社は山城高校の副校長先生が来られ、講演の依頼を受けました。過去の講師の方々についてお尋ねしたところ、実にそうそうたる顔ぶれであり、「何で私なの？」との大いなる疑問はありました。が、引き受けることにいたしました。

「AI（人工知能）最前線」と題し、私どもの会社で研究・開発



会場写真



講師写真

している顔認証のデモンストレーション（デモ）を中心に、世の中のAIの状況をお伝えする予定でした。しかしながら、当日はそのデモがうまく動かず、途中で中止しました。その為、講演時間が15分ほど余ることとなり、急きょ質問タイムとさせていただきます。実はそこから驚きの連続でした。

350人もいる中で、次々と手を挙げ質問され、更にその質問が大変鋭く、例えば「私は病氣したときAIに診てもらいたくない。人間の医者さんに診てほしい」とか「AIが人間を超えろと言われているが、本当なのか」とか、AIに携わる者全てが回答を模索

している難しい質問ばかりでした。高校1年生なので、AIについては全く興味がなだらうな、と考えていましたが、とんでもなく、皆さんAIに興味を持ち、よく理解されていました。この質問タイムにより、母校の高校1年生に驚くと同時に頼もしく感じました。

「何で私なの？」という疑問は今でも晴れておりませんが、講演することで、若い皆さんから活力をもらうことができ、大変楽しい貴重な経験となりました。ありがとうございました。

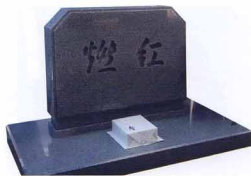
(編注)木皮優氏は1976年3月卒、現、京セラコミュニケーションシステム株式会社経営企画部長。各界で活躍する同窓生を講師に迎え、貴重な体験を聴き、考え方を学ぶ「山城高校21世紀塾」、第32回は11月8日、右京ふれあい文化会館にて開催されました。

●紅燃碑献花と双陵クラブ

12月7日、快晴ですが寒い朝を迎えました。山城高校中庭前の「紅燃碑」に向かって黙祷をする京三中三七会8名の姿がありました。東京、神奈川からこの日のために駆け付けた方や、学校からも川口副校長が参列されました。冬の陽射しが豪華な献花に映え、黙祷を終えた皆さんの顔には、ホッとされた様子がうかがわれます。

太平洋戦争中の昭和19年12月7日、東南海地震で中島飛行機工場(愛知県半田市)が倒壊。学徒動員で、半田工場で勤労の三七回生13名が犠牲になりました。この悲劇を忘れないために、毎年の「追悼法要」や慰霊碑「紅燃碑」建立により、末永く後世に史実を伝えてきました。

献花追悼に引き続き、毎月の「双陵クラブ」例会の会場に席が移りました。創立100年を機に三一同窓会役員が引退し、山城高校同



紅燃碑

窓に引き継がれ、その後平成20年、三一同窓生の「双陵クラブ」が再々発足しました。今回の参加者は17名。床の間には「紅燃」の掛け軸(天龍寺平田管長「三中33回卒業」筆。一色氏の挨拶に始まり、物故者への黙祷、上田氏の東京110周年祝賀会の報告と乾杯。90歳前後の皆さんですが、学生時代気分ではあだ名で通じ合い、通学圏の苦労話。茜は20本以上あるとか、上七軒や祇園が夕方5時になると呼んでいるとか、話はとど



紅燃の掛け軸とともに

まることがありません。「タクシィが迎えに来ました」との催促でお開きとなりました。

(山城14回高柳記)

● ウォーターボーイズ 記念公演

毎年の恒例行事となった水泳部男子による「ウォーターボーイズ」が、9月9日（土）11時、13時、15時の3回公演で行われました。今回は15周年記念公演として、0



横断幕

Bたちも加わり、総勢60人が、各回40分にわたって見事なシンクロ演技を、はつらつと披露しました。近隣住民にも毎年楽しみにしているという方が多く、これからも20回、30回と続くことが期待されます。



宙返り



ピラミッド

● 姉妹校との交流

10月20日から27日まで、ドイツのギムナジウム・イン・デン・フィルダ・ペンデン校の生徒14人、先生方2人、計16人が京都に滞在し、山城高校生と化学の授業を受けたほか、書道や調理実習、着付け教室も体験しました。

2005年に始まった交流は7回目となり、初回から引率しておられるザビーネ先生は、すっかりおなじみとなりました。末永く交流が続くことを願っています。

（編集担当）



山口校長とザビーネ先生



書道の時間



和装を体験

